西脇ひろき 政策集 2026

街は大きくなった。
次は、暮らしの番です。

福岡の成長を、
市民一人ひとりの
暮らしの豊かさにつなげる。

私が目指す福岡

都市が発展し、税収や企業が増えても、日々の生活の「ちょっとした不便」が放置されていては意味がありません。**私の最優先課題は「市民の暮らし」です。**

街を大きくすること自体が目的ではない。成長を、市民一人ひとりの暮らしにつなげるための構造をお約束します。

未来への投資・都市の飛躍

▲

【土台】福岡パスポート

すべてをつなぐ市民デジタル基盤

▲

市民の暮らし（最優先）

子育て・教育・交通・防災・福祉・ルールと治安・行政改革

市民デジタル基盤「福岡パスポート」

現在、バラバラに存在している市のサービスやアプリ、地域活動の窓口を、**「市民から見て一つの入口」**にまとめます。

一から莫大な税金を使って新規開発するのではなく、既存の仕組みを連携させ、使いやすさを徹底的に磨き上げます。

福岡で暮らすためのすべての機能を集約

- **行政手続き・お知らせ：**必要な情報にすぐアクセスできる入口。
- **デジタル投票・意思表示：**選挙投票や市民参加の政策投票をスマホから安全に実現[cite: 3]。
- **地域イベント・活動の案内：**自分の住む街の情報を網羅[cite: 3]。
- **ふくおかクエスト連携：**日常の行動がポイントに変わる[cite: 3]。
- **共助ネットワーク：**災害時や交通障害時の緊急SOS・支援マッチング[cite: 3]。
- **地域経済との連携：**ポイント利用やQRコード決済サービス等との連携構想[cite: 3]。

市民参加を、もっと楽しく。「ふくおかクエスト」

歩く、公共交通を使う、健康診断を受ける、買い物をするといった**日々の「行動」そのものをゲーム化**します。行政が「参加してください」とお願いするのではなく、「遊んでいるうちに街が動く」仕組みを作ります。

◆ 【ゲーミフィケーションによる行動変容】

デイリークエストやログインボーナス、区対抗ランキングなどを通じて、市民の健康増進・ボランティア参加・消費行動を自然に喚起します。

既存インフラの統合

既存の仕組みを競合させず一つの入口に。

多彩なゲーム要素

デイリークエスト、ログインボーナス、無料ガチャ等。

仲間・地域との連携

パーティー機能、市内88ヶ所制覇、区対抗戦。

徹底した効果検証

消費増や健康効果を測定しダッシュボード公開。

困ったときは、お互い様。「共助ネットワーク」

大規模な交通障害や災害時、行政やタクシーだけでは対応しきれません。「車を出せる」「充電できる」人と、「助けてほしい」人を公的な仕組みで安全につなぎます。

◆ 【平時からのアプリ登録による支え合い】

災害時だけに頼るのではなく、平常時からアプリで「自分ができる支援（ペット預かり、車での送迎、充電場所の提供など）」を登録。事前の本人確認で安全なマッチングを実現します。

主な構想と安全への配慮

- **緊急クエスト発令：**アプリから帰宅困難者などの支援募集を通知し、マッチング。
- **安全最優先の登録制：**平常時から本人確認、免許情報等を徹底し安全体制を構築します。
- **企業の参加と都市圏連携：**社用車を持つ企業との連携や、都市圏全体での助け合いへ。

子育ての負担を減らし、希望を持てる福岡へ

「働きたいのに働けない」をなくす。第一子から保育料無償化。

「せっかく働いても保育料に消えてしまう」壁を取り除き、働きたい人が選択肢を持てる街へ。単なる支出ではなく、家庭の所得増や地域経済の好循環へつなげます。

具体的なお約束と実行策

- **精密な財政シミュレーション：**年間数十億円規模の必要額を算出し市民に公開。既存事業の見直しで持続可能な財源を確保します。
- **保育士が戻ってきたい街へ：**給与改善に加え、県外からの就職・転職時の特別手当や転居支援（Uターン支援）を実施。
- **働く環境そのものの改革：**ICTによる事務効率化、業務分担を進め、一人の保育士が長く働き続けられる職場づくり。
- **先回りの受け皿確保：**待機児童の再発を防ぐため、地域・年齢別の需要を予測して受入枠を先行確保。

毎日の移動を、もっと便利に。「道路を賢く使う」渋滞対策

渋滞は道路が足りないからだけではありません。車を悪者にせず、**今ある道路を「賢く使う」**ことで、無駄なストレスとイライラを解消します。

具体的なアプローチ

- **AIによる信号制御：**深圳等の先進事例に倣い、天候・時間帯・リアルタイム交通量に応じてAIが信号機を最適化します。
- **都市データとナビの連動：**昭和通りや都市高速など、渋滞が発生する前に複数ルートへ車を事前分散誘導。
- **直感的に走れる道路デザイン：**ジッパー合流を路面表示で明記しマナー任せにしない。右折専用レーン等の手前カラー表示。
- **発進遅れ・空き駐車場探しの削減：**信号変更の車載通知構想、駐車場空き情報のリアルタイム連携、配送荷捌き枠の予約管理。
- **公共交通の維持：**バス運転士不足への抜本対策と若年運転士支援、コミュニティ交通の利便性向上。

命と、その後の暮らしまで守り抜く防災

私は3歳のとき、明石市で阪神・淡路大震災を経験しました。家の瓦が落ち、部屋がぐちゃぐちゃになった光景は今でも心に残っています。

だからこそ、防災は他人事ではありません。

災害そのものは防げなくても、「どこに逃げるか」だけでなく「どう暮らしを立て直すか」まで行政が責任を持ちます。

生活再建を見据えた具体策

- **避難所の環境改善：**TKB（トイレ・キッチン・ベッド）の早期整備、プライバシーの配慮、体育館への空調完備。
- **誰一人取り残さない避難体制：**子ども、高齢者、障がいのある方への個別支援、ペット同行避難の受け入れ環境整備。
- **在宅・車中泊避難の支援：**電源・蓄電設備や生活物資の支援体制を整え、長期化する避難生活と生活再建まで支え切る。
- **福岡パスポートの活用：**発災直後から復旧まで、迅速な情報伝達と共助ネットワークをつなぐ。

安心して老後も暮らせるまち、福岡へ

最優先するのは「介護を受ける人」だけではなく、**「介護を支える人（職員）」**です。将来にわたって安心できる循環を、曖昧な財源論ではなく「既存事業の徹底検証」によって生み出します。

◆ 【介護を支える人を守る・ICTの活用】

職員の待遇改善と定着支援を最優先。AI・ICT導入で事務負担を減らし、「人にしかできないケアの時間」を創出します。

1 待遇と定着

賃金改善、住宅支援、ハラスメント対策を一体推進。

2 AI・ICT化

記録業務を効率化し「ケアの時間」を創出します。

3 家族の支援

介護離職を防ぐ相談体制や休息支援を強化します。

4 財源と循環

効果の薄い既存事業を見直し、必要な福祉へ再配分。

日本人も外国人も、安心して暮らせるまちへ

「外国人が増えて不安」という声を偏見と切り捨てず、かといって排斥もせず、国籍に関係なく同じルールを公平に守り合う共生社会を作ります。

◆ 【アプリでつながる「防犯・市民の声」】

福岡パスポートから「福岡マッチョ警備隊（仮）」の募集・登録、マナー悪化箇所の通報が可能に。さらに「道が壊れている」「車いすで通りづらい」といった街の不満や危険箇所を**写真付きでアップロード**でき、行政の迅速な改善につなげます。

市民参加型防犯の新しいかたち

- **礼儀と自制心のパトロール：**威圧ではなく「礼儀と自制心」で街をパトロール。一緒に活動する仲間が安心できる環境を作ります。
- **私刑（晒し）の禁止と交流：**トラブルの動画晒しは厳禁。「知らない外国人」に多言語でルールを伝え、最終的には外国人も「街を守る側」へ巻き込みます。

食の都・福岡を守る。

国が進める「食料品の消費税減税」。家計負担を軽くする一方で外食は対象外となるため、内食との価格差が広がり**外食控えによる飲食店の倒産・廃業**が強く懸念されます。

店が潰れてから「大変ですね」では遅い。私が一番愛する福岡の食（移住して10kg太ったほどです）を守るため、危機の兆候が見えた段階から先手で備える行政へ転換します。

食を守る3本柱

- ① **潰れる前に守る：**制度変更の前から売上・客数等の数字を継続追跡。異変を察知し、緊急融資や利子補給、専門相談へ迅速に接続します。
- ② **稼げる店にする：**モバイルオーダー・省エネ設備・多言語対応などDX投資を支援し、少人数でも利益が残る強い経営体制へ転換させます。
- ③ **福岡市が客を呼ぶ：**市長自ら「今日は福岡で食べよう」と発信。「ふくおかクエスト」やグルメ企画と連動し行政がお客さんを増やすために動きます。

政治を、もっと分かりやすく。

特定の政党や組織のしがらみがない「無所属」だからこそ、市民目線だけで判断します。

具体的な改革案

- **税金使途の透明化：**税金の使い道と政策決定プロセスを完全にオープンにします。
- **議会の情報公開：**市議会の出席率、議案への賛否、視察成果等を分かりやすく情報公開します。
- **AIによる行政効率化：**行政窓口や庁内業務へAIを積極的に活用し、業務効率化と「市民から見える市政」を実現します。
- **PDCAの徹底：**政策実施後の効果検証を徹底し、効果の薄い事業は勇気を持って見直します。

政治の常識を、変える。「FUKUOKA VOTE FES」

駅立ち・辻立ち・選挙カー等を行わず、インターネットと政策を中心に届ける選挙に挑戦。普通の会社員や若い世代が政治に挑戦できる前例を作ります。

◆ 【投票をお祭りにする新しい選挙のカタチ】

選挙のない日も予算使途を市民が提案・投票。選挙時はステージやキッチンカー等で期日前投票をフェス化し、区対抗の「投票駅伝」で投票率アップを目指します。

FUKUOKA VOTE FES（投票フェス）構想

- **選挙のない日も投票：**予算使途を市民や子どもたちが提案・投票し実現する体験型プラットフォーム。
- **投票率アップへの還元：**50%超えや前回超えの区へは地域還元を実施し、「投票した方が得だぞ」と言い合える文化を作ります。

福岡の未来への挑戦
「FUKUOKA RETURN PROJECT」

暮らしの土台を守った上で、都市の成長と文化の発展へ大胆に挑戦します。

◆ 【ボートレース福岡パーク化のその先へ】

2026年10月供用開始のパーク化を継承・進化させ、音楽・演劇・アートの発信拠点へ。さらに騒音影響を前提とした本格ナイター化の可能性調査や文化基金創設を進めます。

プロジェクトの柱

- **福岡のショーケースへ：**ボートレースをしない人でも魅力に出会える空間づくり。
- **福岡市文化芸術未来基金（仮）：**事業の財政効果を見える化し、文化芸術へ再投資。食に加え「芸術文化」を新たな都市ブランドに。

街は大きくなった。
次は、暮らしの番です。

福岡の成長を、
市民一人ひとりの暮らしの豊かさにつなげる。

暮らしを良くする。
身近な不便を改善する。
政治を透明にする。
市民参加をもっと身近にする。
未来にも挑戦する。